

# 初級漢字の品詞性と造語力

加納 千恵子

## 要 旨

漢字は音声とともに意味をも担う文字である。したがって、単漢字の中心義を知っていれば、学習者はその漢字が構成する熟語の意味を容易に類推することができると言われている。しかし、外国人の学習者がそれらの漢字熟語を文中で使えるようになるためには、意味ばかりでなく、品詞や文中での他の語との共起関係などに関する情報も重要である。本稿では、初級の外国人学習者にそのような漢字の品詞情報や造語力を効果的に教えるための基礎研究として、基本漢字が単独で使われる際の品詞と、それらが構成する熟語の品詞とを比較する。また、それらの漢字熟語の語構成についても検討する。

【キーワード】 基本漢字 漢字熟語 品詞 語構成 造語力

## Parts of Speech of Basic Kanji and Their Word Formation

Kano, Chieko

Kanji represent units of both sound and meaning. Therefore, it is often claimed that learners should be able to guess the meaning of kanji compounds, using knowledge of the core meaning of the individual kanji which make up the words. For foreign learners of Japanese, however, not only the meaning of the words but also information about parts of speech of the words, usages of the words in sentences, etc. is very important in order to be able to use them in making sentences. In this paper, the author will compare the parts of speech of single kanji and their compounds to establish effective ways of teaching about parts of speech and word formation of basic kanji for beginners.

## 1. はじめに

加納・他(1988)では、次のような指標によって外国人の日本語学習者に初級で教える基本漢字500字を選定した<sup>1)</sup>。

- (1) 漢字の成り立ちを教えるのに便利な漢字、漢字の構成要素となる漢字を選ぶ
- (2) 日本語の語彙体系、文法体系を習得するための基礎語彙に使われる漢字を選ぶ
- (3) 実際の使用頻度が高く、使用範囲が広い漢字を選ぶ

(1)は、特に漢字を全く知らない非漢字圏学習者のために「漢字とはどのようなものか」というオリエンテーションを行うことを主な目的としたものであり、かなり初期の頃に扱われるべき指標である。漢字の成り立ちとして、象形文字、指事文字、会意文字、形声文字の中から、典型的で分かりやすいものが選ばれ、また、漢字の構成要素<sup>2)</sup>として、部首ばかりでなく、形声文字の音符も紹介されている。ただし、この点にばかり指導の重点が置かれると、漢字教育が理念的になりすぎ、特に日本で生活している学習者にとっては、実践的な教育効果が出るまでに時間がかかりすぎる傾向がある。漢字は、他の文字と比べて、その習得に著しく長い学習期間を要する文字であることが知られている。成人の学習者のために即効性を期待するには、(2)の指標により他の日本語教育活動に用いられている語彙と関連づけることによって学習の負担を軽減し、同時に学習効果を高めることが重要である。特に、基本的な文型において述語となる動詞や形容詞、それらと共に起する名詞などの漢字表記を学習することによって、文の読解活動を促進することができる。

また、学習者への動機づけの面から(3)の指標も重要である。実際には、学習目的によって、使用頻度の高い漢字語彙が異なる可能性も高いことから、最近では初級の段階から学習者の専門分野別に漢字および漢字語彙を選択する試みも行われている<sup>3)</sup>。

さらに(3)の使用頻度を考える際に大切なことは、単独で使用頻度の高い漢字もあれば、単独ではそれほどでなくても、使用頻度の高い熟語を構成する漢字もあるということである。そして、初級後半から中・上級へと進むにつれて、漢字熟語の数が加速的に増えていくことが学習者の大きな負担となっているが、初級で学習した漢字の知識をいかに熟語の理解・運用につなげていけるかが、効率的な漢字語彙拡張のための大きなポイントになると思われる。熟語の語構成に関する知識や構成要素となる漢字の字義から熟語の意味を類推させることなどはよく行われているが、語彙力の増強のためには、意味ばかりでなくその熟語がどのような品詞で使われるかに関する情報や、文中での他の語との共起性に関する情報も重要であろう。

本稿では、ある漢字が文中で単独で使われる場合に、どのような品詞として使われるかという情報を「品詞性」と呼ぶ。例えば、漢字「読」は、単独で「読む」という動詞として使われるので、動詞の品詞性を持つと考える。一方、漢字「重」は、単独で「重い」という形容詞として使われるので、形容詞の品詞性を持つと考える。このような漢字の品詞性が、そのまま熟語を構成する際にも同様の機能を持つのであれば、漢字熟語の品詞や用法を類推する上で重要な役割を果たすと考えられる。

そこで本稿では、初級学習者のために選定された基本漢字のうち、単独で動詞・形容詞として使われる漢字を取り上げ、それらが構成する熟語の語構成を概観するとともに、その熟語がどのような品詞性を持ち得るかを検討する。そして、そのような漢字の品詞性や造語力に関する知識を教授法に活かしていくための基礎研究としたい。

## 2. 単漢字の品詞性と熟語の品詞性・語構成

加納・他（1988）で選定された基本漢字 500 字の中には、単独で動詞として使われる漢字として 111 字があげられているが、本稿では、そこに「生」「運」「表」「現」「増」「減」「眠」の 7 字を加え、「悲」と「怠」を除いて、以下の 116 字を動詞の品詞性を持つ漢字とする<sup>14)</sup>。

表 1. 動詞として使われる基本漢字 116 字

行来帰動進止入出乗降	着向歩走通渡泳飛起寝
立座働休遊食飲見聞話	読書作脱押引持投打置
取使払洗歌送受教習貸	借返売買開閉始終焼折
切削分消回曲並集合変	代建残続落流上下思考
知感覺忘選調比決願言	答伝笑泣喜驚困疲住泊
過違晴数会別待訪呼生	運表現増減眠

上の漢字の中には、「行」が「行く」と「行う」、「降」が「降りる」と「降る」、「着」が「着く」と「着る」などのように、2つの意味の異なる動詞として使われるものがある。それらが熟語を構成する際にはどちらの意味が働いているのかという問題もある。例えば、「進行」では「行く」の意味、「行為」では「行う」の意味が働いていると考えられる。また、「行」は、「行動（コウドウ）」と「行儀（ギョウギ）」というように、異なる読みを持っている。しかし、本稿では、主にその漢字が作る熟語の品詞性と語構成のみに注目して検討していくので、意味や読みの違いにはこだわらずに熟語例を集めることにしたい。

また、単独で形容詞として使われる漢字として、以下の 52 字を選んだ<sup>15)</sup>。

表 2. 形容詞として使われる基本漢字 52 字

大小多少高低安新古美	明暗重軽長短太細広狭
強弱近遠良悪速早遅正	熱冷暑寒暖温涼若忙難
楽苦悲痛白黒赤青深好	静急

「高」「広」「強」「深」のような漢字は、「高まる・高める」「広まる・広める／広がる・広げる」「強まる・強める」「深まる・深める」などのように、そのまま動詞でも使われる。また、「冷たい」

と「冷える・冷やす／冷める・冷ます」のように、意味は共通だが動詞に使われる時は読み方が変わるものもある。「楽しい」と「楽しむ」、「悲しい」と「悲しむ」のように、どちらを主と考えるべきか迷うものもある。これらの漢字は、形容詞の品詞性と動詞の品詞性の両方を備えていると考えられるが、一応この表1と表2の分類にしたがって検討を進めることとする。

さて、単独で動詞や形容詞として使われる漢字が熟語を構成する場合、その熟語の品詞性には主に(1)～(3)のような可能性がある。

(1)「する」を伴って漢語動詞として使われる熟語

- a. 動詞+動詞 例) 行動スル(行う+動く)  
開始スル(開く+始まる)
- b. 動詞+名詞 例) 見物スル(見る+物 →物ヲ見る)  
決心スル(決める+心 →心ヲ決める)
- c. 名詞+動詞 例) 外出スル(外+出る →外ニ出る)  
骨折スル(骨+折る →骨ヲ折る)
- d. 形容詞+動詞 例) 激変スル(激しい+変わる→激しく変わる)  
急増スル(急+増える →急に増える)
- e. 動詞+形容詞 例) 減少スル(減る+少ない →少なくて減る)  
成長スル(成る+長い →長く成る)

(2)「な」を伴ってナ形容詞(形容動詞)として使われる熟語

- a. 形容詞+形容詞 例) 温暖ナ(温かい+暖かい)  
冷静ナ(冷たい+静かな)
- b. 形容詞+名詞 例) 強力ナ(強い+力 →力ガ強い)  
熱心ナ(熱い+心 →心ガ熱い)
- c. 名詞+形容詞 例) 気楽ナ(気+楽な →気ガ楽な)  
手軽ナ(手+軽い →手ガ軽い)
- d. 形容詞+動詞 例) 多感ナ(多い+感じる→多く感じる)  
強引ナ(強い+引く →強く引く)
- e. 動詞+形容詞 例) 困難ナ(困る+難しい→難しく困る)  
沈痛ナ(沈む+痛い →痛くて沈む)

(3) 名詞として使われる熟語

- a. 動詞+動詞 例) 飲食(飲む+食べる)  
開閉(開ける+閉める)

- b. 形容詞+形容詞 例) 長短(長い+短い)  
明暗(明るい+暗い)
- c. 名詞+名詞 例) 外国(外+国)  
電力(電(気)+力)
- d. 動詞+名詞 例) 食品(食べる+品 → 食べる品)  
終点(終わる+点 → 終わる点)
- e. 形容詞+名詞 例) 悪人(悪い+人 → 悪い人)  
難点(難しい+点 → 難しい点)
- f. 名詞+動詞 例) 海流(海+流れる → 海の流れ)  
神話(神+話す → 神の話し)
- g. 名詞+形容詞 例) 水深(水+深い → 水の深さ)  
体長(体+長い → 体の長さ)
- h. 形容詞+動詞 例) 軽食(軽い+食べる → 軽く食べる)  
新聞(新しい+聞く → 新しく聞く)
- i. 動詞+形容詞 例) 行楽(行く+楽しい → 楽しみに行く)  
残暑(残る+暑い → 暑さが残る)

その他の熟語として、「始終」「最近」「大変」などのように副詞になるものもあるが、数は少ない。そこで、上の(1)～(3)の場合について、単漢字の品詞性とその漢字が作る熟語の品詞性を決める上でどのように機能しているかを、熟語の語構成から見てみたい。

例えば、(1) a では、動詞の漢字と動詞の漢字が動詞の品詞性を持つ熟語を作っている。(1) b では、動詞の漢字「見る」の後に名詞の漢字「物」が来て、名詞の品詞性を持つ熟語を作っているが、この熟語「見物」の意味は、「見る物」という名詞修飾にはなっておらず、「物ヲ見ること」という動詞句の名詞化の意味になっている。もちろん「見物」は、「物ヲ見ること」という意味の名詞の品詞性と同時に、「する」をつけて「物ヲ見る」という意味の動詞の品詞性の2つを備えていると考えられる。(1) c も同様である。また、(1) d、(1) e のように、形容詞の漢字と動詞の漢字が動詞の品詞性を持つ熟語を作る場合、形容詞の漢字の方は副詞的な意味で使われる。

(2) a では、形容詞の漢字と形容詞の漢字が形容詞(ナ形容詞/形容動詞)の品詞性を持つ熟語を作っている。(2) b のように、形容詞の漢字「強い」が名詞の漢字「力」の前に来る場合でも、その熟語の意味が「強い力」という名詞修飾にはならず、「力が強いこと」という形容詞句の名詞化の意味になる。(2) c の例はあまり数が多くない。また、(2) d、(2) e のように、形容詞の漢字と動詞の漢字が熟語を作る場合は、(1) d、(1) e の場合と同じく形容詞の漢字の方は副詞的な意味で使われる。

これに対して、(3) a や (3) b のように、動詞の漢字同士、形容詞の漢字同士の組み合わせ

でも、名詞の熟語を作る場合がある。動詞の漢字の組合わせは、類義字の場合（「飲食」「感覚」）と、反義字の場合（「開閉」「売買」）とがあるが、形容詞の漢字の組み合わせでは反義字の場合がほとんどである。（3）dや（3）eのように、動詞や形容詞の漢字が名詞の漢字の前に来て名詞の熟語を作る場合には、連体修飾の意味になり、（3）fや（3）gのように、名詞の漢字が前に来て熟語を作る場合には、後ろに来る動詞の漢字や形容詞の漢字の意味が名詞化すると考えられる。（3）hのように、形容詞の漢字の後ろに動詞の漢字が来る場合は、（1）や（2）の場合と同様に形容詞の漢字は副詞的な意味になるが、（3）iのような場合は、形容詞の漢字は名詞的な意味で使われていると考えられる。

### 3. 漢字の造語力

#### 3. 1 動詞の漢字の造語力

まず、116字の各漢字の造語力を概観するために、どの程度の数の熟語を作るのかを調べた。熟語例の収集には、Mark Spahn/Wolfgang Hadamitzky (1989) の『漢英熟語リパース字典』（日外アソシエーツ）を使用した<sup>6)</sup>が、不要と思われる熟語は割愛した。また、外国人学習者にとって必要な中級までの語彙の目安として、日本語能力試験の1級までに入っている語彙に下線を引いた。

動詞の品詞性を持つ漢字が動詞性の熟語を数多く構成するという結果になれば、そのような漢字の品詞性を教えることにより、効率的な漢語動詞の語彙の拡張ができると考えられよう。調査の結果、以下のように分類されることがわかった。

- 〔1〕動詞の熟語を多く作る類           45字  
       行帰進止入出乗降着走 通起休説脱遊持投置取  
       洗送受習返売開閉始焼 折消集合変建続落考選  
       決待訪増減
- 〔2〕動詞と名詞を同じくらい作る類   30字  
       来動歩立見話作打終分 回曲流上下知感觉調願  
       言答伝住会別生運表現
- 〔3〕名詞の熟語を多く作る類           10字  
       食書座使歌教代残過数
- 〔4〕どちらも少ない類                 31字  
       向渡泳飛寝働飲聞押引 払貸借買切割並思忘比  
       笑泣喜驚困疲泊違晴呼 眠

動詞の品詞性を持つと思われる漢字116字のうち、〔1〕類と〔2〕類を合わせると、75字（約65%）が動詞の熟語を多く作るということになる。動詞の熟語より名詞の熟語の方を多く作る



漢字は10字(約9%)であった。また、熟語例そのものが少なく、造語力が低いと判断される漢字が31字(約25%)ほどあることもわかった。

まず、[1]類の各漢字について熟語例を見ていくと、次のようになっている。左側の■□の下にある熟語は、その漢字が語頭にくる熟語であり、右側の□■の下にある熟語は、その漢字が語尾にくる熟語である。「～スル」となっているのは「する」を伴って動詞として使われるもの、「～ナ」となっているのは「ナ形容詞(形容動詞)」として使われるもので、何も印がないものは名詞、その他である。下線は、国際交流基金編(1994)に載っている語彙である。

# [1] 動詞の熟語を多く作る漢字 45字

行	<div><div></div><div></div></div>	行進スル	行動スル	行列スル	行商スル	4	<div><div></div><div></div></div>	先行スル 通行スル 移行スル 修行スル 歩行スル 試行スル 興行スル	決行スル 進行スル 流行スル 代行スル 連行スル 潜行スル	走行スル 発行スル 旅行スル 同行スル 運行スル 履行スル	実行スル 飛行スル 強行スル 直行スル 執行スル 横行スル	徐行スル 平行スル 施行スル 逆行スル 断行スル 暴行スル	31
	行為	行政	行事	行程	4	慣行 刊行 急行	銀行 夜行 素行	現行 犯行 悪行	非行 血行 善行	孝行 品行	14		
	帰	帰京スル 帰納スル 帰還スル	帰宅スル 帰着スル 帰省スル	帰化スル 帰港スル	帰依スル 帰属スル	帰国スル 帰結スル	12	固帰スル	再帰スル				2
		帰路					1						
	進	進化スル 進展スル 進入スル	進行スル 進軍スル	進学スル 進級スル	進出スル 進撃スル	進歩スル 進水スル	11	行進スル 猛進スル	促進スル 精進スル	前進スル 発進スル	推進スル 直進スル	増進スル 突進スル	10
		進度	進路	進退				3	急進	後進	先進		
止	止血スル					1	停止スル 防止スル	中止スル 終止スル	廃止スル 休止スル	禁止スル 制止スル	静止スル	9	
												0	
入	入手スル 入場スル 入会スル 入力スル	入学スル 入賞スル 入室スル 入団スル	入社スル 入国スル 入荷スル	入院スル 入金スル 入党スル	入浴スル 入信スル 入門スル	17	記入スル 潜入スル 介入スル 吸入スル	加入スル 購入スル 移入スル 乱入スル	投入スル 輸入スル 転入スル 流入スル	侵入スル 注入スル 編入スル	導入スル 突入スル 進入スル	18	

	入試	入用			2	収入	歳入				2	
出	出生スル 出発スル 出現スル 出題スル 出所スル 出頭スル	出世スル 出品スル 出産スル 出力スル 出家スル 出願スル	出血スル 出席スル 出勤スル 出火スル 出馬スル	出社スル 出勤スル 出場スル 出向スル 出港スル	出版スル 出張スル 出演スル 出国スル 出費スル	27	支出スル 提出スル 流出スル 続出スル	外出スル 演出スル 排出スル 選出スル	進出スル 放出スル 救出スル	脱出スル 輸出スル 転出スル	産出スル 退出スル 検出スル	17
	出欠	出身	出典		3							0
乗	乗車スル	乗降スル	乗馬スル	乗務スル	乗船スル	5	分乗スル 搭乗スル	同乗スル	自乗スル	便乗スル	添乗スル	6
	乗用	乗客	相乗		3							0
降	降伏スル	降下スル	降車スル	降参スル	4	下降スル	投降スル	昇降スル	乗降スル	滑降スル		5
	降水	降雨	降雪		3	以降						1
着	着工スル 着席スル 着地スル 着脱スル	着手スル 着水スル 着服スル	着目スル 着火スル 着信スル	着色スル 着用スル 着眼スル	着陸スル 着任スル 着想スル	16	先着スル 決着スル 密着スル	到着スル 定着スル 粘着スル	執着スル 発着スル 落着スル	付着スル 燐着スル 漂着スル	吸着スル 接着スル	14
	着衣				1	愛着	未着					2
	着実ナ				1	横着ナ	沈着ナ					2
走	走行スル	走破スル			2	逃走スル 敗走スル	力走スル 滑走スル	快走スル 暴走スル	独走スル 競走スル	脱走スル		9
	走法	走者			2							0
通	通用スル 通訳スル 通院スル 通関スル	通行スル 通勤スル 通風スル	通知スル 通学スル 通報スル	通信スル 通気スル 通話スル	通過スル 通告スル 通電スル	16	共通スル	流通スル	開通スル	密通スル	精通スル	5
	通帳 通説	通常 通念	通貨 通俗	通路 通称	通例 通商	10	交通	直通	普通			3
起	起床スル 起草スル	起工スル 起動スル	起用スル 起訴スル	起立スル	起因スル	8	再起スル	決起スル	突起スル	発起スル	想起スル	5
	起点	起源	起伏	起案	4	緣起						1



休	休学 <small>スル</small>	休息 <small>スル</small>	休業 <small>スル</small>	休戦 <small>スル</small>	休養 <small>スル</small>	10	運休 <small>スル</small>			1		
	休憩 <small>スル</small>	休講 <small>スル</small>	休止 <small>スル</small>	休刊 <small>スル</small>	休職 <small>スル</small>							
<hr/>												
	休暇	休日				2	定休	産休	代休	無休	4	
読	読解 <small>スル</small>	読経 <small>スル</small>	読破 <small>スル</small>			3	購読 <small>スル</small>	講読 <small>スル</small>	朗読 <small>スル</small>	多読 <small>スル</small>	再読 <small>スル</small>	13
							判読 <small>スル</small>	乱読 <small>スル</small>	速読 <small>スル</small>	音読 <small>スル</small>	解読 <small>スル</small>	
							愛読 <small>スル</small>	精読 <small>スル</small>	黙読 <small>スル</small>			
<hr/>												
	読者	読書				2						0
脱	脱出 <small>スル</small>	脱退 <small>スル</small>	脱線 <small>スル</small>	脱力 <small>スル</small>	脱毛 <small>スル</small>	14	解脱 <small>スル</small>	離脱 <small>スル</small>				2
	脱水 <small>スル</small>	脱皮 <small>スル</small>	脱会 <small>スル</small>	脱色 <small>スル</small>	脱衣 <small>スル</small>							
	脱却 <small>スル</small>	脱走 <small>スル</small>	脱落 <small>スル</small>	脱税 <small>スル</small>								
<hr/>												
	脱字	脱腸				2						0
遊	遊牧 <small>スル</small>	遊泳 <small>スル</small>	遊覧 <small>スル</small>	遊離 <small>スル</small>	遊説 <small>スル</small>	5	外遊 <small>スル</small>	回遊 <small>スル</small>	周遊 <small>スル</small>	浮遊 <small>スル</small>	豪遊 <small>スル</small>	5
	遊女	遊星	遊戯			3						0
持	持参 <small>スル</small>	持続 <small>スル</small>	持久 <small>スル</small>			3	維持 <small>スル</small>	支持 <small>スル</small>	所持 <small>スル</small>	固持 <small>スル</small>	保持 <small>スル</small>	6
							堅持 <small>スル</small>					
<hr/>												
	持病	持説	持論			3						0
投	投入 <small>スル</small>	投書 <small>スル</small>	投資 <small>スル</small>	投与 <small>スル</small>	投石 <small>スル</small>	15	力投 <small>スル</small>	暴投 <small>スル</small>				2
	投身 <small>スル</small>	投函 <small>スル</small>	投降 <small>スル</small>	投射 <small>スル</small>	投票 <small>スル</small>							
	投球 <small>スル</small>	投影 <small>スル</small>	投稿 <small>スル</small>	投薬 <small>スル</small>	投機 <small>スル</small>							
<hr/>												
	投手					1						0
置	置換 <small>スル</small>					1	位置 <small>スル</small>	処置 <small>スル</small>	放置 <small>スル</small>	配置 <small>スル</small>	設置 <small>スル</small>	8
							安置 <small>スル</small>	倒置 <small>スル</small>	留置 <small>スル</small>			
<hr/>												
						0	装置					1
取	取材 <small>スル</small>	取得 <small>スル</small>	取捨 <small>スル</small>			3	採取 <small>スル</small>	先取 <small>スル</small>	奪取 <small>スル</small>	聴取 <small>スル</small>		4
<hr/>												
						0						0
洗	洗面 <small>スル</small>	洗濯 <small>スル</small>	洗車 <small>スル</small>	洗顔 <small>スル</small>	洗眼 <small>スル</small>	9	受洗 <small>スル</small>					1
	洗脳 <small>スル</small>	洗髪 <small>スル</small>	洗浄 <small>スル</small>	洗練 <small>スル</small>								
<hr/>												
	洗剤	洗礼				2	水洗					1

送	送別スル	送金スル	送付スル	送迎スル	送信スル	8	回送スル	放送スル	郵送スル	運送スル	輸送スル	15
	送検スル	送還スル	送電スル				返送スル	別送スル	直送スル	発送スル	配送スル	
							移送スル	転送スル	電送スル	飲送スル	護送スル	

---

送料	1	葬送	1
----	---	----	---

受	受験スル	受刑スル	受注スル	受信スル	受益スル	12	甘受スル	授受スル	伝受スル	3
	受容スル	受像スル	受領スル	受賞スル	受講スル					
	受理スル	受精スル								

---

受動	受難	2		0
----	----	---	--	---

習	習得スル	習熟スル	2	学習スル	自習スル	予習スル	復習スル	実習スル	12
				練習スル	演習スル	教習スル	講習スル		
				常習スル	補習スル		独習スル		

---

習字	習慣	習性	3	風習	悪習	慣習	3
----	----	----	---	----	----	----	---

返	返事スル	返済スル	返答スル	返還スル	返上スル	12	代返スル	1
	返却スル	返金スル	返信スル	返品スル	返納スル			
	返送スル	返礼スル						

---

返書	1		0
----	---	--	---

売	売買スル	売却スル	売春スル	3	商売スル	販売スル	発売スル	公売スル	多売スル	9
					即売スル	乱売スル	直売スル	完売スル		

---

売店	売名	売薬	3	特売	1
----	----	----	---	----	---

開	開放スル	開会スル	開拓スル	開通スル	開催スル	21	公開スル	打開スル	展開スル	切開スル	全開スル	5
	開始スル	開発スル	開幕スル	開店スル	開眼スル							
	開演スル	開化スル	開花スル	開業スル	開設スル							
	開戦スル	開国スル	開校スル	開閉スル	開館スル							
	開講スル											

---

開口	1	未開	満開	2
----	---	----	----	---

閉	閉口スル	閉会スル	閉鎖スル	閉店スル	閉校スル	7	開閉スル	密閉スル	2
	閉館スル	閉幕スル							

---

0		0
---	--	---

始	始末スル	始動スル	始業スル	3	開始スル	終始スル	創始スル	3

---

始発	始終	2	原始	年始	2
----	----	---	----	----	---

焼	焼死スル	焼失スル	焼却スル	3	燃焼スル	半焼スル	全焼スル	延焼スル	4			
	0				0							
折	折衝スル	折半スル		2	屈折スル 挫折スル	骨折スル	右折スル	左折スル	曲折スル	6		
	折角	折衷		2	0							
消	消化スル	消去スル	消毒スル	消費スル	消耗スル	10	解消スル			1		
	消火スル	消失スル	消灯スル	消却スル	消滅スル							
	消防	消息	消極的	3	0							
集	集中スル	集合スル	集金スル	集計スル	集約スル	8	採集スル	収集スル	特集スル	密集スル	募集スル	8
	集配スル	集結スル	集積スル				結集スル	召集スル	編集スル			
	集団	集会	集落	集権	4	全集 歌集	特集	群衆	文集	詩集	6	
合	合成スル	合計スル	合流スル	合格スル	合意スル	13	化合スル	連合スル	混合スル	結合スル	統合スル	16
	合議スル	合併スル	合致スル	合唱スル	合併スル		集合スル	照合スル	複合スル	総合スル	会合スル	
	合体スル	合奏スル	合宿スル				符合スル	配合スル	接合スル	適合スル	談合スル	
	合同	合理	合法	合金	合憲	10	都合	1				
	合否	合板	合本	合作	合点							
変	変化スル	変更スル	変革スル	変動スル	変遷スル	14	急変スル	激変スル	改変スル			3
	変死スル	変色スル	変身スル	変形スル	変異スル							
	変換スル	変装スル	変態スル	変質スル								
	変人	変数	変則	変種	変調	5	不変	政変	事変	異変	4	
	0				大変ナ				1			
建	建設スル	建築スル	建国スル	建造スル	建議スル	5	再建スル	創建スル				2
	建材					1	封建	1				
続	続出スル	続行スル	続発スル	続投スル	4	存続スル	連続スル	持続スル	相続スル	接続スル	10	
						継続スル	永続スル	後続スル	断続スル	勤続スル		
	続報	続編			2	0						

落	落下スル 落選スル	落第スル 落着スル	落札スル 落葉スル	落成スル 落涙スル	落胆スル	9	没落スル 暴落スル	転落スル 陥落スル	下落スル	急落スル	脱落スル	7
	落丁	落日	落石	落差	落語	5	当落	段落	部落	集落		4
考	考慮スル	考案スル	考察スル	考証スル	考查スル	5	思考スル	選考スル	熟考スル	再考スル	黙考スル	5
						0	参考	備考				2
選	選沢スル 選任スル	選考スル 選別スル	選挙スル 選定スル	選出スル 選曲スル	選抜スル	9	当選スル 改選スル	抽選スル 精選スル	入選スル 厳選スル	落選スル	再選スル	8
	選手					1	予選					1
決	決心スル 決算スル 決別スル	決行スル 決議スル 決済スル	決定スル 決着スル	決断スル 決戦スル	決意スル 決起スル	12	対決スル 自決スル	採決スル 即決スル	解決スル 評決スル	可決スル	否決スル	8
	決勝	決死				2	判決	未決	先決			3
待	待望スル	待遇スル	待機スル	待避スル		4	期待スル	招待スル	接待スル	優待スル		4
						0						0
訪	訪問スル	訪日スル	訪米スル	訪欧スル		4	探訪スル	来訪スル	歴訪スル			3
						0						0
増	増加スル 増水スル 増額スル	増大スル 増発スル 増税スル	増進スル 増産スル	増強スル 増設スル	増長スル 増築スル	11	激増スル	急増スル	倍增スル			3
						0	増減					1
減	減少スル 減刑スル	減点スル 減税スル	減税スル	減量スル	減額スル	7	軽減スル	削減スル	半減スル	激減スル		4
	減権					1	増減	加減				2

「止」「閉」「焼」「待」「取」「訪」のように名詞の熟語を全く作らない漢字もある。ナ形容詞（形容動詞）の熟語を作るのは「着」と「変」のみであり、その数は少ない。上記〔1〕類の漢字を熟語数の多いものから順に並べ、熟語中のどの位置に現れているかを見てみると、以下の表3のようになる。（ ）内は熟語の品詞別の内訳である。

表 3. 動詞 [ 1 ] 類の漢字の出現位置

	熟語数	■□ (V + N + NA)	□■ (V + N + NA)
行	5 3	8 (4 + 4)	4 5 (31+14)
出	4 7	3 0 (27+ 3)	1 7 (17+ 0)
合	4 0	2 3 (13+10)	1 7 (16+ 1)
入	3 9	1 9 (17+ 2)	2 0 (18+ 2)
着	3 6	1 8 (16+ 1 + 1)	1 8 (14+ 2 + 2)
通	3 4	2 6 (16+10)	8 (5 + 3)
開	2 9	2 2 (21+ 1)	7 (5 + 2)
進	2 7	1 4 (11+ 3)	1 3 (10+ 3)
変	2 7	1 9 (14+ 5)	8 (3 + 4 + 1)
集	2 6	1 2 (8 + 4)	1 4 (8 + 6)
送	2 5	9 (8 + 1)	1 6 (15+ 1)
落	2 5	1 4 (9 + 5)	1 1 (7 + 4)
決	2 5	1 4 (12+ 2)	1 1 (8 + 3)
習	2 0	5 (2 + 3)	1 5 (12+ 3)
選	1 9	1 0 (9 + 1)	9 (8 + 1)
起	1 8	1 2 (8 + 4)	6 (5 + 1)
読	1 8	5 (3 + 2)	1 3 (13+ 0)
脱	1 8	1 6 (14+ 2)	2 (2 + 0)
投	1 8	1 6 (15+ 1)	2 (2 + 0)
休	1 7	1 2 (10+ 2)	5 (1 + 4)
受	1 7	1 4 (12+ 2)	3 (3 + 0)
売	1 6	6 (3 + 3)	1 0 (9 + 1)
統	1 6	6 (4 + 2)	1 0 (10+ 0)
帰	1 5	1 3 (12+ 1)	2 (2 + 0)
増	1 5	1 1 (11+ 0)	4 (3 + 1)
減	1 4	8 (7 + 0)	6 (4 + 2)
乗	1 4	8 (5 + 3)	6 (6 + 0)
返	1 4	1 3 (12+ 1)	1 (1 + 0)
消	1 4	1 3 (10+ 3)	1 (1 + 0)
降	1 3	7 (4 + 3)	6 (5 + 1)
走	1 3	4 (2 + 2)	9 (9 + 0)
遊	1 3	8 (5 + 3)	5 (5 + 0)
洗	1 3	1 1 (9 + 2)	2 (1 + 1)
持	1 2	6 (3 + 3)	6 (6 + 0)
考	1 2	5 (5 + 0)	7 (5 + 2)
止	1 0	1 (1 + 0)	9 (9 + 0)
置	1 0	1 (1 + 0)	9 (8 + 1)
始	1 0	5 (3 + 2)	5 (3 + 2)
折	1 0	4 (2 + 2)	6 (6 + 0)
閉	9	7 (7 + 0)	2 (2 + 0)
建	9	6 (5 + 1)	3 (2 + 1)
焼	8	3 (3 + 0)	5 (5 + 0)
待	8	4 (4 + 0)	4 (4 + 0)
取	7	3 (3 + 0)	4 (4 + 0)
訪	7	4 (4 + 0)	3 (3 + 0)

漢字が前の位置に現れる熟語（■□）の多いものが「出通開変起脱投休受帰増返消洗閉建」の16字、後ろの位置に現れる熟語（□■）の多いものが「行送習読売続走止置」の9字、前の位置に現れる熟語と後ろの位置に現れる熟語が同じくらいあるものが「合入着進集落決選減乗降遊持考始折焼待取訪」の20字であることがわかる。このような情報も、漢字の造語力を教える上で必要であろう。

次に、〔2〕類の漢字の作る熟語を見てみよう。動詞の品詞性を持つ熟語と名詞の品詞性を持つ熟語が同じくらいあると思われるタイプである。

## 〔2〕動詞の熟語と名詞の熟語を同じくらい作る漢字 30字

来	■□					□■						
	来場スル	来日スル	来訪スル		3	伝来スル 由来スル	往来スル	再来スル	到来スル	飛来スル	6	
.....												
動	来月	来週	来年	来客	来春	5	以来 将来	外来 生来	元来 舶来	家来 本来	徒来	9
	動員スル	動作スル	動揺スル	動転スル		4	移動スル 主導スル 激動スル 躍動スル	運動スル 出動スル 始動スル	活動スル 振動スル 変動スル	感動スル 起動スル 流動スル	行動スル 機動スル 連動スル	16
.....												
	動機 動議	動向 動体	動詞 動脈	動物 動乱	動力	9	異動 可動 制動	自動 言動 電動	騒動 手動 波動	不動産 受動 反動	暴動 衝動	14
.....												
動的ナ						1						0
歩	歩行スル					1	散歩スル	讓歩スル	進歩スル	退歩スル	4	
	歩道	歩数	歩調			3	初歩	競歩	徒歩	3		
立	立案スル	立脚スル	立身スル	立証スル	立腹スル	5	確立スル 創立スル 両立スル 連立スル	孤立スル 樹立スル 起立スル	自立スル 対立スル 直立スル	成立スル 中立スル 分立スル	設立スル 独立スル 乱立スル	16
	立体 立春	立方 立食	立法 立地	立憲	立秋	8	公立	国立	私立	県立	都立	5
.....												
立派ナ						1						0



見	見学 <small>スル</small>	見物 <small>スル</small>	見聞 <small>スル</small>		3	会见 <small>スル</small>	発見 <small>スル</small>	拝見 <small>スル</small>	予見 <small>スル</small>	後見 <small>スル</small>	5	
	見解	見地	見当	見識	3	意見 私見	一見	外見	先見	所見	6	
話					0	会話 <small>スル</small>	世話 <small>スル</small>	対話 <small>スル</small>	電話 <small>スル</small>	通話 <small>スル</small>	5	
	話題	話術	話法		3	神話 民話	童話	講話	手話	談話	6	
作	作曲 <small>スル</small> 作詩 <small>スル</small>	作業 <small>スル</small> 作図 <small>スル</small>	作成 <small>スル</small>	作用 <small>スル</small>	作詞 <small>スル</small>	7	工作 <small>スル</small> 動作 <small>スル</small> 連作 <small>スル</small>	耕作 <small>スル</small> 合作 <small>スル</small>	制作 <small>スル</small> 試作 <small>スル</small>	創作 <small>スル</small> 自作 <small>スル</small>	製作 <small>スル</small> 操作 <small>スル</small>	11
	作家 作法	作者 作物	作戦 作為	作品 作風	作文 作例	10	凶作 発作 不作	傑作 自作 米作	原作 新作 力作	駄作 大作 劳作	名作 農作	14
打	打開 <small>スル</small>	打診 <small>スル</small>	打電 <small>スル</small>	打倒 <small>スル</small>	打破 <small>スル</small>	5	殴打 <small>スル</small>	強打 <small>スル</small>	乱打 <small>スル</small>	連打 <small>スル</small>	4	
	打撃 打点	打球 打力	打算 打率	打者	打順	8	好打	代打				2
終	終結 <small>スル</small> 終息 <small>スル</small>	終始 <small>スル</small>	終了 <small>スル</small>	終業 <small>スル</small>	終止 <small>スル</small>	6						0
	終日	終点	終生	終戦	終末	5	最終	始終	臨終			3
分	分解 <small>スル</small> 分配 <small>スル</small> 分化 <small>スル</small> 分納 <small>スル</small>	分業 <small>スル</small> 分布 <small>スル</small> 分割 <small>スル</small> 分別 <small>スル</small>	分散 <small>スル</small> 分離 <small>スル</small> 分歧 <small>スル</small> 分立 <small>スル</small>	分析 <small>スル</small> 分裂 <small>スル</small> 分家 <small>スル</small>	分担 <small>スル</small> 分類 <small>スル</small> 分譲 <small>スル</small>	18	区分 <small>スル</small> 積分 <small>スル</small>	処分 <small>スル</small> 通分 <small>スル</small>	等分 <small>スル</small> 微分 <small>スル</small>	配分 <small>スル</small> 約分 <small>スル</small>	検分 <small>スル</small>	9
	分子 分科	分母 分校	分数 分冊	分野 分身	分量 分室	10	塩分 成分 身分	気分 多分 養分	自分 等分 鉄分	十分 半分 当分	水分 部分	14
回	回收 <small>スル</small> 回覧 <small>スル</small> 回想 <small>スル</small>	回送 <small>スル</small> 回歸 <small>スル</small> 回避 <small>スル</small>	回転 <small>スル</small> 回顧 <small>スル</small> 回遊 <small>スル</small>	回答 <small>スル</small> 回航 <small>スル</small>	回復 <small>スル</small> 回診 <small>スル</small>	13	奪回 <small>スル</small>	撤回 <small>スル</small>				2
	回数	回路	回教	回線	回虫	5	一回 数回	今回 何回	次回 毎回	先回	前回	8
曲	曲解 <small>スル</small>	曲折 <small>スル</small>				2	作曲 <small>スル</small>	編曲 <small>スル</small>				2
	曲線	曲芸	曲名	曲目		4	歌曲	楽曲	新曲	名曲		4

流 流行スル 流通スル 流産スル 流失スル 流出スル 10 交流スル 合流スル 逆流スル 漂流スル 放流スル 5  
流転スル 流動スル 流入スル 流布スル 流用スル

流域 流血 流言 流水 流星 9 一流 海流 気流 直流 下流 18  
流体 流派 流水 流木 寒流 急流 激流 支流 時流  
主流 上流 水流 清流 暖流  
中流 電流 本流

流畅ナ 流麗ナ 2 風流ナ 1

上 上演スル 上京スル 上昇スル 上達スル 上陸スル 7 向上スル 参上スル 炎上スル 逆上スル 計上スル 8  
上映スル 上気スル 献上スル 返上スル 北上スル

上位 上級 上空 上下 上司 15 以上 屋上 頂上 海上 口上 13  
上旬 上等 上院 上記 上質 最上 紙上 身上 水上 地上  
上水 上層 上代 上部 上流 天上 途上 陸上

上手ナ 上品ナ 2

下 下降スル 下車スル 下宿スル 下校スル 下血スル 8 低下スル 落下スル 却下スル 南下スル 4  
下山スル 下船スル 下落スル

下線 下旬 下水 下駄 下痢 14 以下 上下 地下 部下 階下 9  
下位 下院 下記 下級 下部 天下 配下 皮下 目下  
下等 下層 下剂 下女 下男  
下流

下品ナ 下手ナ 2 0

知 0 承知スル 通知スル 感知スル 関知スル 告知スル 11  
察知スル 周知スル 熟知スル 探知スル 認知スル  
予知スル

知事 知識 知人 知性 知能 9 英知 旧知 未知 理知 4  
知恵 知覚 知見 知力

知的ナ 1

感 感激スル 感謝スル 感心スル 感動スル 感染スル 11 実感スル 予感スル 共感スル 3  
感化スル 感泣スル 感光スル 感嘆スル 感電スル  
感服スル

感覚 感情 感触 感想 感度 6 直感 同感 音感 快感 好感 9  
感性 語感 雑感 情感 反感

0 鈍感ナ 敏感ナ 多感ナ 3

覚	覚悟スル	覚醒スル		2	錯覚スル	自覚スル	知覚スル	発覚スル	4		
				0	感覺 不覺	視覚	聴覚	味覚	才覚 6		
調	調印スル 調理スル	調査スル 調和スル	調整スル 調教スル	調節スル 調合スル	調停スル 調達スル	10	強調スル	協調スル	新調スル	同調スル	4
	調子	調味料	調書			3	失調 語調 歩調	不調 短調	格調 長調	基調 声調	口調 輪調 11
							好調ナ	順調ナ	単調ナ	快調ナ	低調ナ 5
願	願望スル					1	祈願スル	志願スル	出願スル	請願スル	4
	願書					1	念願	大願	悲願		3
言	言及スル	言明スル				2	証言スル 發言スル 明言スル	助言スル 予言スル	宣言スル 公言スル	断言スル 失言スル	伝言スル 進言スル 11
	言語	言論	言動			3	方言 用言	無言 名言	格言	休言	他言 7
答	答申スル	答弁スル				2	回答スル 返答スル	解答スル	応答スル	贈答スル	即答スル 6
	答案	答辭				2	問答	誤答	正答		3
伝	伝言スル 伝導スル	伝染スル 伝聞スル	伝達スル	伝来スル	伝授スル	7	宣伝スル	遺伝スル			2
	伝記	伝説	伝統	伝票	伝令	5	駅伝	自伝	秘伝		3
住						0	移住スル 先住スル	居住スル 定住スル	安住スル	永住スル	在住スル 7
	住居	住所	住宅	住民	住職	5					0
会	会见スル 会葬スル	会合スル 会釈スル	会谈スル 会得スル	会話スル	会食スル	8	開会スル 照会スル	再会スル 脱会スル	集会スル 入会スル	退会スル 面会スル	閉会スル 9
	会員 会場 会費	会館 会期	会議 会報	會計 会長	会社 会堂	11	宴会 国会 学会 例会	機会 司会 茶会	議會 社会 町会	教会 大会 年会	協會 都会 部会 16

別	別居スル	別送スル	別納スル		3	區別スル 識別スル 類別スル	差別スル 選別スル 離別スル	送別スル 大別スル	死別スル 分別スル	惜別スル 弁別スル	12	
	別荘 別紙 別便	別々 別人 別名	別科 別室 別難	別格 別段 別冊 別表	13	個別	性別	特別	格別		4	
生	生育スル 生殖スル	生活スル 生息スル	生産スル 生誕スル	生存スル 生還スル	8	再生スル 更生スル 發生スル	誕生スル 自生スル 養生スル	往生スル 出生スル	寄生スル 派生スル	群生スル 殺生スル	12	
	生計 生理 生前 生涯	生死 生家 生体	生徒 生氣 生態	生物 生後 生年 生来	16	一生 衛生	学生 厚生	人生 小生	先生 民生	野生 余生	10	
運	運営スル 運用スル	運送スル 運休スル	運転スル 運行スル	運動スル 運航スル	9						0	
	運河	運賃	運命	運輸	運勢	5	海運 命運	悪運 陸運	開運	気運	機運	7
表							幸運ナ 不運ナ				2	
	表現スル	表記スル	表示スル	表彰スル	表明スル	5	代表スル	発表スル	公表スル		3	
現	表紙 表皮	表情 表裏	表面	表札	表層	7	図表	地表	年表	付表	別表	5
	現像スル	現存スル	現有スル			3	再現スル	実現スル	出現スル	表現スル		4
	現金 現場 現職	現行 現状 現世	現在 現代 現品	現実 現地 現物	現象 現役	14						0

上記〔2〕類の漢字を熟語数の多いものから順に並べ、それぞれの漢字がどの位置に現れているかを見てみると、以下の表4のようになる。( )内は熟語の品詞別の内訳であり、ナ形容詞(形容動詞)の熟語を作るのは、「流」「調」「感」の3字のみである。「歌」は名詞の熟語のみを作り、動詞の熟語例が全くなかった。

表4. 動詞〔2〕類の漢字の出現位置

	熟語数	■□ (V + N + NA)	□■ (V + N + NA)
分	5 1	2 8 (18+10)	2 3 (9+14)
生	4 6	2 0 (8+16)	2 6 (12+10)
流	4 5	2 1 (10+9+2)	2 4 (5+18+1)
上	4 4	2 4 (7+15+2)	2 1 (8+13)
動	4 4	1 4 (4+9+1)	3 0 (16+14)
会	4 2	1 9 (8+11)	2 5 (9+16)
作	3 9	1 7 (7+10)	2 5 (11+14)
下	3 5	2 6 (8+16+2)	1 3 (4+9)
立	3 3	1 4 (5+8+1)	2 1 (16+5)
調	3 2	1 3 (10+3)	2 0 (4+11+5)
感	3 2	1 7 (11+6)	1 5 (3+9+3)
別	2 8	1 6 (3+13)	1 6 (12+4)
回	2 5	1 8 (13+5)	1 0 (2+8)
知	2 3	1 0 (0+9+1)	1 5 (11+4)
来	2 3	8 (3+5)	1 5 (6+9)
言	2 3	5 (2+3)	1 8 (11+7)
運	2 1	1 4 (9+5)	9 (0+7)
現	2 0	1 7 (3+14)	4 (4+0)
表	1 9	1 2 (5+7)	8 (3+5)
打	1 8	1 3 (5+8)	6 (4+2)
見	1 7	7 (3+4)	1 1 (5+6)
伝	1 4	1 2 (7+5)	5 (2+3)
話	1 4	3 (0+3)	1 1 (5+6)
終	1 3	1 1 (6+5)	3 (0+3)
答	1 2	4 (2+2)	9 (6+3)
曲	1 2	6 (2+4)	6 (2+4)
覚	1 2	2 (2+0)	1 0 (4+6)
住	1 2	5 (0+5)	7 (7+0)
歩	1 1	4 (1+4)	7 (4+3)
願	9	2 (1+1)	7 (4+3)

「下回運現表打伝終」の8字は前の位置に現れる熟語が多く、「動会作立調知来言見話答覚歩願」の14字は後ろの位置に現れる熟語が多い。「分生流上感別曲住」の8字は、前の位置に現れる熟語と後ろの位置に現れる熟語がほぼ同数あることがわかる。〔1〕類の動詞の場合と比べると、後ろの位置に現れて熟語を作る漢字の方が多いと言えよう。

次に、〔3〕類の漢字10字の作る熟語を見てみよう。名詞の品詞性を持つ熟語を多く作るタイプである。

[ 3 ] 名詞の熟語を多く作る漢字 10字

食	■□					□■						
	食事スル					1	会食スル	外食スル	試食スル	絶食スル	4	
	食器	食卓	食堂	食品	食物	14	給食	定食	昼食	大食	月食	23
	食料	食欲	食塩	食券	食通		立食	主食	米食	夜食	小食	
	食道	食肉	食費	食用			和食	洋食	草食	肉食	朝食	
							副食	菜食	軽食	飲食	寝食	
							日食	間食	夕食			
書						0	清書スル	投書スル	読書スル			3
	書齋	書籍	書店	書道	書物	17	原書	願書	辞書	聖書	図書	12
	書類	書評	書院	書画	書簡		秘書	文書	新書	親書	証書	
	書記	書庫	書状	書体	書生		聖書	本書				
	書名	書面										
座						0	正座スル	連座スル				2
	座敷	座席	座標	座布団	座談	7	王座	台座	前座	星座	講座	8
	座高	座長					上座	下座	口座			
使	使用スル 使役スル					2	行使スル					1
	使命	使者	使節	使途		4	大使	公使	特使	密使	勞使	5
歌						0						0
	歌手	歌謡	歌曲	歌劇	歌詞	8	短歌	演歌	軍歌	校歌	国歌	9
	歌人	歌集	歌唱				詩歌	唱歌	聖歌	和歌		
教	教育スル 教習スル 教化スル 教示スル					4	説教スル	調教スル				2
	教員	教科	教会	教訓	教師	15	宗教	仏教	回教	司教	国教	5
	教授	教材	教職	教職	教養							
	教官	教祖	教団	教頭	教典							
代	代弁スル 代用スル 代行スル 代替スル 代読スル					8	交代スル					1
	代筆	代表	代返									
	代金	代理	代案	代休	代謝	8	近代	世代	古代	現代	時代	10
	代数	代打	代役				先代	地代	本代	年代	歴代	
残	残業スル 残存スル 残留スル					3						0



残金	残高	残光	残品	残部	12	敗残					1
残党	残務	残雪	残暑	残飯							
残像	残額										
残酷ナ	残念ナ	残酷ナ	残忍ナ		4	無残ナ					1
過	過食スル	過信スル	過熱スル		3	経過スル	超過スル	通過スル			3
過去	過失	過疎	過程	過労	13	一過	大過				2
過言	過日	過小	過多	過当							
過大	過度	過分									
過剰ナ	過密ナ	過激ナ	過酷ナ	過敏ナ	5						
数					0						0
数学	数字	数量	数値	数列	10	回数	奇数	偶然	算数	小数	25
数日	数人	数年	数分	数百		整数	多数	単数	点数	分数	
						無数	複数	圓数	正数	少数	
						人数	定数	日数	代数	字数	
						係数	負数	変数	指数	有数	
数奇ナ					1						0

上記〔3〕類の漢字を熟語数の多いものから順に並べ、それぞれの漢字がどの位置に現れているかを見てみると、以下の表5のようになる。( )内は熟語の品詞別の内訳である。ナ形容詞(形容動詞)の熟語を作るのは、「残」と「過」と「数」の3字のみである。

表5. 動詞〔3〕類の漢字の出現位置

	熟語数	■□ (V + N + N A)	□■ (V + N + N A)
食	4 2	1 5 (1 + 14)	2 7 (4 + 23)
数	3 6	1 1 (0 + 10 + 1)	2 5 (0 + 25 + 0)
書	3 2	1 7 (0 + 17)	1 5 (3 + 12)
代	2 7	1 6 (8 + 8)	1 1 (1 + 10)
数	2 6	1 9 (4 + 15)	7 (2 + 5)
過	2 6	2 1 (3 + 13 + 5)	5 (3 + 2)
残	2 1	1 9 (3 + 12 + 4)	2 (0 + 1 + 1)
座	1 7	7 (0 + 7)	1 0 (2 + 8)
歌	1 7	8 (0 + 8)	9 (0 + 9)
使	1 2	6 (2 + 4)	6 (1 + 5)

「歌」と「数」は、動詞の熟語を全く作らない。この2つの漢字は動詞というより、「歌（うた）」、「数（かず）」という名詞の意味で熟語を作ると考えたほうがよいのかもしれない。

他の〔3〕類の漢字は、熟語の前に使われて名詞を作る場合は動詞の意味を持ち、熟語の後ろに使われる場合は名詞の意味で熟語を構成しているとも考えられる。例えば「食」は、「食卓」（＝食べるためのテーブル）、「食堂」（＝食べるための会堂）、「食品」（＝食べるための品物）などの名詞を作る場合は、「食べる」という動詞の意味を持つが、「給食」（＝給される食事）、「昼食」（＝昼の食事）、「定食」（＝定まっている食事）などの場合は、「食べること／食事」という名詞の意味を持つと考えたほうがよさそうである。同じように考えると、「書」は「書く」と「書いたもの／書物」、「座」は「座る」と「座るところ／座席」、「使」は「使う」と「使い／使者」、「教」は「教える」と「教え／宗教」、「代」は「代わる」と「代金／時代」というように、動詞性と名詞性を両方備えていると言えるのではないだろうか。「残」と「過」は、熟語の後ろの位置に現れることがほとんどないため、「残る」「過ぎる」という動詞の意味で使われていると思われる。この2字は十形容詞（形容動詞）の熟語を比較的多く作るという特徴を持つ。

最後に、〔4〕類の漢字31字については、作られる熟語数が非常に少なく、造語力が小さいと考えられるため、単漢字の用法を中心に「方向」「渡米」「水泳」「飛行機」「寝室」「労働」「飲料水」「新聞」などの限られた使用頻度の高い熟語のみを教えればよいと思われる。

### 3.2 形容詞の漢字の造語力

一方、形容詞の品詞性を持つ漢字の熟語例は、動詞の漢字の場合ほど数が多くないことがわかった。動詞の品詞性を持つ漢字が動詞と名詞の熟語を作る類に分けられたことから、形容詞の漢字は形容詞と名詞の熟語を作る類に分けられるのではないかと考えたが、実際には、形容詞を数多く作るタイプの漢字というのは存在しなかった。形容詞の品詞性を持つ漢字52字は以下の5つに分類された。

〔1〕名詞の熟語を多く作る類	15字(29%)
〔2〕形容詞・名詞が同じくらいの類	9字(17%)
〔3〕動詞・名詞が同じくらいの類	4字(8%)
〔4〕形容詞・名詞・動詞ともある類	13字(25%)
〔5〕どの熟語も少ない類	11字(21%)

上の〔1〕～〔4〕の類を合わせると、52字のうち41字（約80%）が名詞の熟語を多く作ると考えられる。これらの漢字が単独で形容詞の意味機能を持っていると考えれば、他の名詞の漢字の前について連体修飾構造を持つ熟語を作るというのは当然であろう。ただ、〔2〕と〔4〕の類を合わせると形容詞の熟語を作る漢字が22字（約42%）あることから、これらの形容詞の熟語を覚える際に、単漢字の形容詞性をうまく使うことができるかどうかを検討する価値はあろう。動詞

[1] 名詞の熟語を多く作る漢字 15字

—67—

古	古風					1						0
	古代 古文	古典	古式	古書	古都	6	中古	最古	太古			3
						0						0
美						0	優美ナ	華美ナ				2
	美人 美味 美德	美術 美食 美男	美容 美酒	美学 義女	美顔 美声	12						0
	美化スル					1	贊美スル					1
長						0	深長ナ					1
	長官 長男 長身	長期 長方形 長編	長所 長音 長調	長女 長兄 長老	長短 長針	14	議長 学長 店長 部長 機長	社長 会長 所長 好調 市長	身長 館長 院長 総長 団長	特長 局長 首長 課長	年長 波長 室長 区長	23
						0	延長スル	成長スル	助長スル	増長スル		4
短	短気ナ					1						0
	短歌 短編 短調	短期 短音 短文	短大 短針 短命	短所 短小	短波 短足	13	長短	最短				2
	短縮スル					1						0
近						0						0
	近眼 近海 近来	近郊 近況 近隣	近視 近親	近所 近世	近代 近年	12	最近	付近	側近	遠近		4
	近接スル					1	接近スル					1
遠	遠大ナ					1	深遠ナ					1
	遠足 遠泳 遠路	遠方 遠洋	遠心 遠島	遠近 遠視	遠来 遠隔	12	永遠	望遠鏡				2

	遠征スル	遠慮スル			2	敬遠スル						1
早	早急ナ	早熟ナ			2							0
	早速	早朝	早春	早計	早婚	7						0
	早期	早産										
	早退スル				1							0
寒					0							0
	寒帯	寒中	寒気	寒波	寒流	9	耐寒	大寒	防寒			3
	寒風	寒暑	寒暖	寒冷								
					0							0
楽					0	気楽ナ	安楽ナ					2
	楽器	楽譜	楽観	楽士	楽曲	11	音楽	娯楽	極楽	雅楽	管楽	15
	楽章	楽天	楽園	楽隊	楽団		弦楽	洋楽	器楽	道楽	声乐	
	楽屋						文楽	行楽	快楽	苦楽	能楽	
					0							0
黒					0							0
	黒板	黒人	黒色	黒衣	黒点	7	暗黒	大黒				2
	黒炭	黒煙										
					0							0

上記の例を見ると、「長」と「楽」を除いて、やはり「形容詞＋名詞」の語構成で名詞となっている熟語例が多いことがわかる。

上記の漢字を熟語数の多いものから順に並べ、それぞれの漢字がどの位置に現れているかを見てみると、以下の表6のようになる。( )内は熟語の品詞別の内訳である。

表6. 形容詞【1】類の漢字の出現位置

	熟語数	■□ (V+N+N A)	□■ (V+N+N A)
長	4 2	1 4 (0+14+0)	2 8 (4+23+1)
新	3 0	2 5 (1+23+1)	5 (1+3+1)
楽	2 8	1 1 (0+11+0)	1 7 (0+15+2)
高	2 6	2 4 (0+18+6)	2 (0+2+0)
小	2 0	1 4 (0+13+1)	6 (1+5+0)
近	1 8	1 3 (1+12+0)	5 (1+4+0)
遠	1 8	1 4 (2+11+1)	4 (1+2+1)
短	1 7	1 5 (1+13+1)	2 (0+2+0)
美	1 6	1 3 (1+12+0)	3 (1+0+2)
低	1 4	1 2 (2+8+2)	2 (0+2+0)
寒	1 2	9 (0+9+0)	3 (0+3+0)
少	1 0	5 (0+5+0)	5 (1+4+0)
古	1 0	7 (0+6+1)	3 (0+3+0)
早	1 0	1 0 (1+7+2)	0 (0+0+0)
黒	9	7 (0+7+0)	2 (0+2+0)

「長」「楽」「少」の3字を除く全ての上記【1】類の漢字は、熟語の前の位置に現れる方が多い。これは、形容詞の品詞性を持つ漢字が連体修飾の機能を果たしていることを考えれば、ごく当り前のことであろう。それ以外に形容詞の漢字が熟語の名詞を作る場合の機能としては、「大小」や「長短」などのような対比型の語構成か、あるいは「最～」のような型になることが多い。

「長」の場合は、1字で「長（おさ）／首長」という名詞の意味も持っており、そのため、熟語の後ろの位置に現れて「議長、社長、会長、…」などの名詞を量産できると考えられる。「楽」も「音楽」の意味で使われる場合に後ろの位置に現れ、「雅楽、管楽、弦楽、…」などの熟語を作ることがわかる。

次に、【2】類の漢字の作る熟語を見てみよう。この類の特徴は、熟語名詞と同じくらい熟語のナ形容詞（形容動詞）を数多く構成することである。

## 【2】形容詞と名詞を同じくらい作る漢字 9字

多	■□	□■	
多忙ナ	多様ナ	多大ナ	多感ナ
多彩ナ	多情ナ	多弁ナ	多芸ナ
多難ナ	9	雑多ナ	減多ナ
多少	多数	多分	多量
多種	多額	多才	多事
多年	多面	多義	多元
12	最多	過多	
多用スル	多発スル	多読スル	多作スル
4			
			0



重	重大ナ	重要ナ	重厚ナ		3	貴重ナ	嚴重ナ	慎重ナ		3	
	重体	重点	重量	重力	重役	11	体重	比重	二重	3	
	重圧	重心	重婚	重税	重傷						
	重油										
	重視スル	重複スル				2	尊重スル	偏重スル		2	
良	良好ナ					1	善良ナ	優良ナ		2	
	良識	良質	良心	良妻	良家	8	不良	最良		2	
	良書	良性	良薬								
	改良スル					1				0	
悪	悪質ナ					1	邪悪ナ	險悪ナ	凶悪ナ	粗悪ナ	4
	悪魔	悪女	悪友	悪文	悪声	13	改悪	最悪	善悪		3
	悪事	悪妻	悪性	悪政	悪習						
	悪戦	悪意	悪人								
	悪化スル	悪用スル				2					0
細						0	詳細ナ	繊細ナ	微細ナ		3
	細工	細胞	細菌	細心	細則	6	明細				1
	細部										
						0					0
弱						0	貧弱ナ	軟弱ナ	薄弱ナ		3
	弱点	弱小	弱体	弱者	弱視	5	胃弱	強弱			2
						0	衰弱スル				1
悲	悲惨ナ	悲壯ナ	悲痛ナ			3					0
	悲劇	悲鳴	悲哀	悲運	悲喜	9	慈悲				1
	悲話	悲願	悲報	悲恋							
	悲観スル					1					0
痛	痛切ナ	痛快ナ	痛烈ナ			3	沈痛ナ	悲痛ナ			2
	痛点	通風	痛恨			2	苦痛	頭痛	心痛	無痛	鈍痛

腹痛 激痛 腰痛

痛感スル	1	0
深 深刻ナ 深長ナ 深遠ナ	3	0
深夜 深海 深度	3	1
	0	0

上記の漢字を熟語数の多いものから順に並べ、それぞれの漢字がどの位置に現れているかを見てみると、以下の表7のようになる。

表7. 形容詞〔2〕類の漢字の出現位置

	熟語数	■□ (V+N+NA)	□■ (V+N+NA)
多	2 9	2 5 (4+12+9)	4 (0+2+2)
重	2 4	1 6 (2+11+3)	8 (2+3+3)
悪	2 3	1 6 (2+13+1)	7 (0+3+4)
痛	1 6	6 (1+2+3)	1 0 (0+8+2)
良	1 4	1 0 (1+8+1)	4 (0+2+2)
悲	1 4	1 3 (1+9+3)	1 (0+1+0)
弱	1 1	5 (0+5+0)	5 (1+2+3)
細	1 0	6 (0+6+0)	4 (0+1+3)
深	7	6 (0+3+3)	1 (0+1+0)

上記〔2〕類の漢字でも、〔1〕類と同様に、「痛」と「弱」を除く全てが熟語の前の位置に現れる例が多い。「痛」は、「痛み」という名詞の意味も持っており、そのため、後ろの位置に現れて「頭痛、腹痛、心痛、…」などの熟語名詞を作ると考えられる。「弱」は、他の形容詞の漢字の後について、「薄弱、軟弱、貧弱」というナ形容詞を作ることがわかる。

また、数は少ないが、名詞とともに「スル動詞」をも多く作る〔3〕類の漢字がある。この場合、漢字の意味は副詞的になり、後ろに来る動詞の漢字を連用修飾する例が多く見られる。

### 〔3〕名詞と動詞を同じくらい作る漢字 4字

暗	■□	□■	0	0
暗中 暗号 暗室 暗黒 暗雲	5	明暗	1	
暗記スル 暗殺スル 暗算スル 暗示スル 暗唱スル	6		0	
暗転スル				

速	0 迅速ナ										1
速達 速報	速度	速力	速効	速球	6	急速 光速	高速 音速	時速 秒速	早速 全速	快速 風速	10
速成スル 速読スル	速決スル	速記スル	速断スル	速答スル	6	加速スル	変速スル	減速スル			3
熱	熱心ナ	熱烈ナ	2								0
熱意 熱病 熱戦	熱帯 熱血 熱波	熱湯 熱情 熱風	熱量 熱度	熱気 熱戦	13	平熱 耐熱	地熱 情熱	光熱 電熱	余熱	高熱	8
熱中スル	熱狂スル	熱望スル	熱演スル	4	加熱スル	過熱スル	自然スル	発熱スル	解熱スル	5	
苦	0										0
苦情 苦渋	苦痛 苦楽	苦行 苦難	苦学 苦肉	苦信	9	病苦	勞苦				2
苦心スル	苦勞スル	苦笑スル	苦戦スル	苦悩スル	5						0

上記の〔3〕類の漢字を熟語数の多いものから順に並べ、それぞれの漢字がどの位置に現れているかを示したものが表8である。「速」を除いて、やはり熟語の前の部分に現れる例が多い。「速」は、「速さ／速度」の意味もあるので、他の名詞の漢字の後について、「時速、風速、光速、…」などの熟語を作ることにもできる。〔3〕類の漢字が熟語の動詞を作る場合、「熱狂する（＝熱く狂う）、熱望する（＝熱く望む）、熱演する（＝熱く演じる）」などのように、副詞的に後ろに来る動詞を修飾する場合と、「加熱する（＝熱を加える）、発熱する（＝熱を発する）、解熱する（＝熱を解く）」などのように、前に来る動詞の補語となる名詞として機能する場合がある。

表8. 形容詞〔3〕類の漢字の出現位置

	熟語数	■□ (V + N + NA)	□■ (V + N + NA)
熱	3 2	1 9 (4 + 13 + 2)	1 3 (5 + 8 + 0)
速	2 6	1 2 (6 + 6 + 0)	1 4 (3 + 10 + 1)
苦	1 6	1 4 (5 + 9 + 0)	2 (0 + 2 + 0)
暗	1 2	1 1 (6 + 5 + 0)	1 (0 + 1 + 0)

最後に、いろいろな品詞の熟語を作る〔4〕類の漢字を見てみよう。

〔4〕形容詞・名詞・動詞の全てを作る漢字 13字

大	■□						□■					
	大切ナ	大麥ナ	大事ナ	大胆ナ	4	偉大ナ 遠大ナ 絶大ナ	巨大ナ 強大ナ 雄大ナ	壮大ナ 尊大ナ 多大ナ	盛大ナ 過大ナ	膨大ナ 広大ナ	13	
.....												
	大分 大抵 大学 大層 大丈夫 大洋 大作 大量 大地	大半 大金 大戦 太鼓 大河 大海 大役 大義 大名	大気 大陸 大工 大木 大国 大食 大局 大意 大根	大会 大家 大臣 大便 大軍 大火 大砲 大器 大腸	大使 大衆 大小 大統領 大軍 大任 大病 大仏 大腸	45	最大 短大	特大	粗大	誇大	医大	6
.....												
	大成スル	大別スル	大敗スル	大勝スル	4	拡大スル	増大スル					2
安	安心ナ 安泰ナ	安全ナ 安穩ナ	安易ナ	安楽ナ	安直ナ	7	不安ナ	平安ナ				2
	.....											
	安静	安価	安否			3	治安	保安	公安	大安		4
.....												
	安心スル 安産スル	安定スル 安息スル	安住スル	安置スル	安眠スル	7	慰安スル					1
明	明確ナ	明白ナ	明朗ナ	明瞭ナ	明快ナ	5	透明ナ	賢明ナ	公明ナ	鮮明ナ		4
	.....											
	明暗	明細				2	不明	文明	声明	照明	自明	5
.....												
	明示スル	明言スル	明記スル			3	説明スル 解明スル	証明スル 表明スル	発明スル 弁明スル	失明スル	言明スル	8
強	強硬ナ 強情ナ	強力ナ 強大ナ	強烈ナ 強欲ナ	強引ナ	強固ナ	8	頑強ナ					1
	.....											
	強盗 強弱	強打 強敵	強国 強震	強者 強風	強度	9	最強	列強				2
.....												
	強化スル 強奪スル	強行スル 強要スル	強制スル	強調スル	強迫スル	7	勉強スル	補強スル	増強スル			3
軽	軽快ナ	軽率ナ	軽薄ナ	軽妙ナ		4						0
	.....											
	軽油	軽度	軽食	軽量	軽症	5						0
.....												

	<u>輕減スル</u>	<u>輕蔑スル</u>	<u>輕視スル</u>		3							0
正	<u>正確ナ</u>	<u>正当ナ</u>	<u>正直ナ</u>	<u>正常ナ</u>	4	<u>不正ナ</u>	<u>公正ナ</u>	<u>純正ナ</u>	<u>適正ナ</u>	<u>端正ナ</u>	5	
	<u>正式</u>	<u>正体</u>	<u>正味</u>	<u>正門</u>	<u>正面</u>	14						0
	<u>正解</u>	<u>正規</u>	<u>正義</u>	<u>正月</u>	<u>正午</u>							
	<u>正数</u>	<u>正教</u>	<u>正道</u>	<u>正妻</u>								
	<u>正座スル</u>				1	<u>改正スル</u> <u>更正スル</u>	<u>訂正スル</u> <u>補正スル</u>	<u>修正スル</u> <u>矯正スル</u>	<u>是正スル</u>	<u>校正スル</u>	8	
冷	<u>冷淡ナ</u>	<u>冷静ナ</u>	<u>冷酷ナ</u>	<u>冷血ナ</u>	4							0
	<u>冷房</u>	<u>冷水</u>	<u>冷氣</u>	<u>冷酒</u>	<u>冷害</u>	7	<u>水冷</u>	<u>空冷</u>	<u>寒冷</u>			3
	<u>冷戦</u>	<u>冷蔵庫</u>										
	<u>冷凍スル</u>	<u>冷蔵スル</u>	<u>冷却スル</u>	<u>冷笑スル</u>	<u>冷遇スル</u>	5						0
温	<u>温和ナ</u>	<u>温暖ナ</u>	<u>温厚ナ</u>	<u>温順ナ</u>	4							0
	<u>温泉</u>	<u>温室</u>	<u>温度</u>	<u>温帯</u>	<u>温情</u>	5	<u>気温</u> <u>室温</u>	<u>体温</u> <u>常温</u>	<u>水温</u> <u>適温</u>	<u>低温</u>	<u>高温</u>	8
	<u>保温スル</u>	<u>検温スル</u>			2	<u>温存スル</u>						1
難	<u>難解ナ</u>				1	<u>困難ナ</u>	<u>無難ナ</u>	<u>多難ナ</u>				3
	<u>難文</u>	<u>難民</u>	<u>難色</u>	<u>難行</u>	<u>難局</u>	12	<u>災難</u> <u>苦難</u>	<u>盜難</u> <u>国難</u>	<u>大難</u> <u>海難</u>	<u>女難</u> <u>水難</u>	<u>至難</u> <u>万難</u>	10
	<u>難易</u>	<u>難所</u>	<u>難点</u>	<u>難病</u>	<u>難問</u>							
	<u>難関</u>	<u>難題</u>										
	<u>難破スル</u>	<u>難航スル</u>	<u>難産スル</u>		3	<u>非難スル</u>	<u>避難スル</u>	<u>還難スル</u>	<u>受難スル</u>			4
白					0	<u>明白ナ</u> <u>蒼白ナ</u>	<u>純白ナ</u>	<u>淡白ナ</u>	<u>腕白ナ</u>	<u>潔白ナ</u>	6	
	<u>白人</u>	<u>白日</u>	<u>白色</u>	<u>白米</u>	<u>白昼</u>	15	<u>余白</u>	<u>空白</u>	<u>卵白</u>	<u>紅白</u>	<u>関白</u>	5
	<u>白紙</u>	<u>白書</u>	<u>白馬</u>	<u>白鳥</u>	<u>白熱</u>							
	<u>白線</u>	<u>白衣</u>	<u>白銀</u>	<u>白菜</u>	<u>白夜</u>							
	<u>白状スル</u>				1	<u>告白スル</u>	<u>自白スル</u>	<u>独白スル</u>	<u>漂白スル</u>			4
好	<u>好調ナ</u>	<u>好色ナ</u>			2	<u>良好ナ</u>						1
	<u>好意</u>	<u>好評</u>	<u>好況</u>	<u>好奇</u>	<u>好機</u>	8	<u>友好</u>	<u>同好</u>	<u>絶好</u>			3
	<u>好感</u>	<u>好物</u>	<u>好例</u>									

好転スル 好演スル		2	愛好スル	1
静	静寂ナ 静的ナ	2	冷静ナ 平静ナ 閑静ナ	3
	静物 静態 静脈	3	安静 動静	2
	静止スル 静養スル 静観スル 静聴スル	4		0
急	急激ナ 急速ナ	2	性急ナ	1
	急行 急務 急用 急性 急所	7	応急 緊急 早急 至急 準急	7
	急流 急病		特急 救急	
急死スル 急進スル 急増スル 急転スル 急落スル		5		0

上記の〔4〕類の漢字を熟語数の多いものから順に並べ、それぞれの漢字がどの位置に現れているかを示したものが表9である。

表9. 形容詞〔4〕類の漢字の出現位置

	熟語数	■□ (V + N + N A)	□■ (V + N + N A)
大	7 4	5 3 (4 + 45 + 4)	2 1 (2 + 6 + 13)
難	3 3	1 6 (3 + 12 + 1)	1 7 (4 + 10 + 3)
正	3 2	1 9 (1 + 14 + 4)	3 (0 + 3 + 0)
白	3 1	1 6 (1 + 15 + 0)	1 5 (4 + 5 + 6)
強	3 0	2 4 (7 + 9 + 8)	6 (3 + 2 + 1)
明	2 7	1 0 (3 + 2 + 5)	1 7 (8 + 5 + 4)
安	2 4	1 7 (7 + 3 + 7)	7 (1 + 4 + 2)
急	2 2	1 4 (5 + 7 + 2)	8 (0 + 7 + 1)
温	2 1	1 2 (2 + 6 + 4)	9 (1 + 8 + 0)
冷	1 9	1 6 (5 + 7 + 4)	3 (0 + 3 + 0)
好	1 7	1 2 (2 + 8 + 2)	5 (1 + 3 + 1)
静	1 4	9 (4 + 3 + 2)	5 (0 + 2 + 3)
軽	1 2	1 2 (3 + 5 + 4)	0 (0 + 0 + 0)

「難」「白」「明」を除いて、やはり熟語の前の部分に現れる例が多い。「難」は、「困難／災難」という名詞として、「水難、女難、海難、…」などの熟語を作ることができる。「白」と「明」は、他の形容詞の漢字の後ろについてナ形容詞を作ることができ、また動詞の漢字の後ろについて「はっきりと、あきらかに」という意味を表す副詞的な用法もある。

最後の〔5〕類の漢字11字は、造語力が低く、あまり熟語の構成要素となることが少ないので、単漢字としての用法を中心に「太平洋」「広告」「残暑」「暖房」「遅刻」など限られた熟語例を教えればよいと考えられる。



#### 4. まとめと今後の課題

中級レベルになって、漢字熟語が数多く出てくると、学習者はなんとか既習の漢字知識を駆使して、熟語の用法を類推しようと試行錯誤を始める。非漢字圏学習者ばかりでなく、漢字圏学習者にとっても、漢字熟語がどのような助詞をとるか、「スル動詞」となるのか、ナ形容詞（形容動詞）となるのか、名詞のみの用法しかないのか、どのような言葉と共起するのか、など、品詞に関する情報が載っている辞典類がまだ少ないために、難しい問題となっている。漢字の品詞性と熟語の品詞性、漢字熟語を構成する際に現れる位置などに関する知識が環境の語彙の拡張の助けになると思われる部分については、ある程度ルール化して教える必要があるのではないだろうか。

本研究の結果から、単独で動詞として使われる漢字については、造語力の低い〔4〕類を除いて、〔1〕～〔3〕の類を分けて品詞情報を教えることがかなり役に立つのではないかと予想される。しかし、単独で形容詞として使われる漢字については、前者の場合ほど造語力が大きくないこと、構成される熟語の品詞の広がりが大きいためルール化が難しいこと、などから即効性のある教育効果に結びつくかどうかは検討を要することがわかった。

今後は、漢字熟語の品詞の問題ばかりでなく、「スル動詞」の場合、自動詞になるのか他動詞になるのか、どのような名詞と共起できるのか、「名詞」の場合、「的」が後ろにつくかつかないか、どのような動詞と共起できるのか、「ナ形容詞（形容動詞）」の場合、「性」がつくかつかないか、どのような名詞を修飾できるのか、などの運用の問題にも焦点を当て、さらに効率的な漢字教育の方法を探っていきたい。本稿では、漢字熟語として字音語のみを取り上げたが、字訓語の場合も考える必要があると思われる。また、形容詞の漢字で特に接頭辞としての用法が大きいものについては、その用法も取り上げる必要があるだろう。

#### 注

- (1) 参考文献3. を参照。この指標に基づいて開発された教材が『基本漢字500 Basic Kanji Book』Vol. 1, Vol. 2（凡人社）である。
- (2) 参考文献1. には、部首や音符の他にも、各種の漢字教材で漢字の構成要素として採用されている字素があることが紹介されている。いずれも漢字の字形の構造化に着目し、構成要素に分解することによって、字形認識を少しでも容易にしようとするアプローチである。
- (3) 参考文献5. や6. にあげてあるように、東京工業大学では理工系留学生のために科学技術分野の漢字の選定を行っており、教材開発が進められている。また東京大学土木工学研究室で開発された『生活の中の漢字250 Essential Kanji for Everyday Use』（チャールズ・イー・タトル出版）のように、日常生活でよく見る漢字を集めた教材もある。さまざまな漢字指導の試みについては、参考文献2. を参照。
- (4) 参考文献3. の92ページに、単独で動詞として使われる漢字の104字表がある。この表では、「休」「見」「聞」「分」「上」「下」「言」の7字は会意文字や指事文字として分類されてい

るが、本稿では、これらも動詞に使われる漢字とするため、合計111字になる。さらに、「学生」の「生」(生きる)、「運転」の「運」(運ぶ)、「表現」の「表」(表す)と「現」(現れる)、「増加」の「増」(増える)、「減少」の「減」(減る)、そして「眠」(眠る)の7字を加え、「悲」と「急」を除いて116字とした。参考文献3. では、「悲」を、「喜ぶ」の対語「悲しむ」(動詞)として取り上げたが、本稿では、「楽しい」の対語「悲しい」(形容詞)として取り上げる。また、「急」は「急ぐ」(動詞)としてではなく、「急な」(ナ形容詞)として取り上げる。逆に、「眠」は、参考文献3. では「眠い」(形容詞)として取り上げたが、本稿では「眠る」(動詞)として取り上げる。その他にも、「報告」の「告」(告げる)、「説明」の「説」(説く)、「予定」の「定」(定める)、などのように、単独で動詞として使える漢字がまだあるが、これらは初級段階では未習の語であると考え、本稿では取り上げなかった。

(5) 参考文献3. の85ページには、単独でイ形容詞として使われる漢字が50字並べてあるが、ここから「眠」を抜いた49字に、単独でナ形容詞として使われる漢字として「好」「静」「急」の3字を加えた合計52字を、本稿では形容詞の品詞性を持つ漢字とする。参考文献3. の92ページの表には、「元気」「有名」「親切」などのように、熟語としてナ形容詞になっているものが22字あげてあるが、本稿では、検討の対象から外した。

(6) Mark Spahn/Wolfgang Hadamitzky (1989) の『漢英熟語リバーズ字典』(日外アソシエーツ)は、漢字が語頭に現われる熟語例ばかりでなく、語中・語尾に現われる熟語例をも漏れなく網羅しているため、用例の収集に適していると判断した。ただし、古語あるいは特殊例と考えられる熟語は筆者の判断で削った。参考文献4. で日本語能力試験1級レベルまでに指定されている7,800語の語彙の中に含まれる字音語には下線を引いた。だが、日本語能力試験1級レベルの語彙のすべてがこの出題基準に明記されているわけではなく、指定外の語彙でも、新聞・雑誌等で比較的使用頻度が高いものがあるので、注意が必要である。

(7) 熟語例の品詞に関しては筆者の判断で印をつけたが、特に「ナ形容詞(形容動詞)」の用法があるか、「スル動詞」の用法があるか、について迷った場合は、林四郎・野元菊雄・南不二男・国松昭編(1993)『例解新国語辞典』(三省堂)によって判定した。

## 参考文献

1. カイザーシュテファン(1998)「漢字学習書各種アプローチの検討(2)一字素アプローチ」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』13号:47-60
2. 川口義一・加納千恵子・酒井順子編(1995)『日本語教師のための漢字指導アイデアブック』創拓社
3. 加納千恵子・清水百合・竹中弘子・石井恵理子(1988)「基本漢字の選定」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』3号:75-93
4. 国際交流基金・日本国際教育協会編(1994)『日本語能力試験出題基準』凡人社

5. 武田明子・入戸野修（1997）「科学技術文献読解のための漢字指導法の見直し」『科学教育研究』21/4：207--216
6. 仁科喜久子・小島聡（1998）「初級から学ぶ「やさしい科学技術日本語読解」テキストの構想」『日本語教育方法研究会会誌』Vol. 5, No. 2：44-45

#### 辞典

- ・ Mark Spahn/Wolfgang Hadamitzky（1989）『漢英熟語リバース字典』日外アソシエーツ
- ・ 林四郎・野元菊雄・南不二男・国松昭編（1993）『例解新国語辞典』三省堂

本研究は平成10年度文部省科学研究費基盤研究（B）（1）（課題番号09558023）、基盤研究（C）（2）（課題番号08680315）および特定領域研究（A）（2）（課題番号10111201）からの助成を得ている。